集　会　ア　ピ　ー　ル

岩手県民のみなさん

今日、私たちは安保法制（＝戦争法）を絶対廃止する固い決意をもって集まりました。

昨年９月、戦争法案反対のたたかいが全国に広がり、法律の専門家の大部分が「安保法制は憲法違反だ」と指摘するなか、「政府は十分な説明をしていない」と多くの国民が考えていたにもかかわらず、安倍内閣と自民党・公明党などは、採決を強行して戦争法を「成立」させる暴挙に出ました。

これまで政府は、「自衛隊は国を守るために必要最小限の実力であり、海外に行って武力行使することはない」、「集団的自衛権行使は認められていない」と説明し、歴代自民党政権もそれを守ってきました。ところが、安倍内閣は憲法解釈を勝手に変えて、これまで出来ない、してはいけないとされてきたことをやろうとしています。戦争法が実施されれば、日本が攻撃されていなくても自衛隊は海外の戦地に派遣され米軍などと一緒に戦争します。新たな任務をもって派遣されるＰＫＯ部隊も戦闘の危険にさらされます。

私たちは、日本を「人を殺し、殺される国」にすることを絶対許しません。憲法無視の勝手な政治を許しません。

国会をとりまいた抗議の大集会で、全国各地の集会で「戦争法廃止」、「立憲主義回復」、「野党は共闘」のコールがわき起りました。そして、戦争法が成立した後も廃止を求める統一署名（２０００万人署名）運動等々、多彩にたたかいは広がり続けています。

平和と民主主義を守るため、力を合わせて安倍政治を終わらせようという心底からの熱いメッセージに国民の共感が広がり、市民と野党が力を合わせてすべての「参議院選挙一人区に統一候補を擁立しよう」とする画期的な大運動もはじまりました。

岩手でも、若者やパパ・ママなどの新たな運動も加わって野党の共闘を促す世論が盛り上がり、４野党が統一候補擁立で一致するところまできています。全国各地で野党と市民の共闘が成立し、あるいは統一候補擁立を目指して話し合いが進んでいます。衆議院北海道５区補欠選挙では、野党と市民組織による統一候補が、自公候補に勝ち抜こうと最終盤の大奮闘をしている最中です。

岩手県民のみなさん、私たちは呼びかけます

２０００万人署名を達成して、日本国憲法をこわして日本を戦争する国にする勢力を許さない強い意志を示しましょう。

県内４野党には「戦争法廃止」、「立憲主義回復」を約束する候補者を一日も早く決めることを強く要請し、その当選のために市民も野党もいっしょに力を合わせましょう。

政治は変えることができます。主権者は私たちです。選挙に行って政治を変えましょう。

２０１６年４月２３日

２０００万人署名達成で戦争法はゼッタイ廃止！４・２３岩手県民集会 参加者一同